がんばろう 南三陸町

復興第35号



発 行 所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84 TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター 企画・編集 千葉伸孝

- 防災対策庁舎 「解体」 「保存」の動き(10月~11月) そして現在 ―

・町に配布の 報道新聞記事を 抜粋しました



◆震災前の
防災対策庁舎

村井県知事は保存に前向き姿勢

・10月の県議会予算特別委員会の境議員の質問に対し、村井知事は有識者会議の結論を待っているが、保存に対し前向きの姿勢を示した。佐藤町長は解体の方針をとっているが、村井知事は保存に対し前向の姿勢を示した。佐藤町長は解体の方針をとっているが、県が、町に延期を申し入れ、凍結状態になっている。

宮城県に防災庁舎保存の要望書と名簿提出

・10月18日、町民有志による「防災対策庁舎を考える町民運動」発起人の後藤氏と埼玉県内の「応援する会」は、県の有識者委員会に「保存するように」と1440人の署名簿を提出した。町は「事前に知らせがない」と総務課長が受け取りを拒否した。有識者会議が21日開かれ、年内にも県は結論を出す。

県有識者会議は南三陸町防災庁舎 「保存すべき」と結論

・「被災の教訓を伝える遺構として世界に誇れる価値がある」と有識者の見解が一致した。維持管理は県が主体となり、遺族や町民の心情に配慮し、十分に協議すべきと注文をつけた。遺構保存の評価項目として①津波の破壊力の痕跡②教訓③発信力④鎮魂

町長への「業務上過失致死」の 刑事責任立件せず

・東日本大震災の津波による43人が犠牲になった事への、遺族からの告訴に対し、津波を予想するのは困難で、業務上過失致死は立件できないと、県警が意見書を送付した。2013年1月から職員の聴取を開始し、佐藤町長には今年2月23日から複数回にわたり事情を聴いた。



町議会の「解体」町長の「解体」から 県有識者会議の「保存」に南三陸町民の戸惑い

・防災庁舎を巡っては、町議会が24年9月に町 民の「早期解体」を採択。佐藤町長も翌年25年 「解体」を表明している。県の有識者会議の「保 存」に、町民の「町議会の決定を覆せるのか」や 「町民不在の議論に懸念」の声があり、町民の議 論の場が欲しいとの意見もある。

町職員の遺族など20人の「遺族会」 解体を求め結成

・29日歌津平成の森での会合で承認された。会

合には15人が集まり有識者会議の保存の決定に遺族の1人は「庁舎で息子を亡くした。遺族の気持がわかっていない。」と話し、「保存」に我々は激怒し混乱している。



近く、有識者会議と村井嘉浩知事と佐藤仁町長に 「保存すべき」との方針に抗議の声明書を提出す る。

4度目の3・11を迎えて

テレビ報道や新聞記事に、南三陸町が毎日のように、震災遺構の「解体」か「保存」かが、メ ディアを通し伝えられている。

突然の村井県知事の、時間をかけ冷静に考えるよう、2031年3月まで県有化の提案が出された。残った「防災対策庁舎」をどうするかは、町民にとってデリケートな問題と、オープンな議論は非常に難しい。多くの町民間の町づくり中でも、防災庁舎に関する話し合いは、タブー視されている。

解体を望む遺族の会の千葉副会長は「遺族の悲しみは癒えない」と話し、県有化を求める請願提出者の及川さんは「時間を掛けて話し合いを」と言う。また、行政にたずさわっていた職員退職者の中でも、「保存」「解体」の考えにも違いがある。元町震災復興町民会議会長の小野寺さん(旧歌津出身)は「復興の加速こそ先決」と話し、震災当時の町総務課長の佐藤さん(旧志津川出身)は「津波の恐怖まざまざ」と保存すべきと言う。

町を2分する考えは、新しい町づくりへの町民 に、『しこり』を残さない解決方法をどうするか。 今後の知事・町長・議会の判断が求められる。

がんばちう



南三陸町

創立(90周年の節目の卒業式 現 卒業証書授与式 の 本業証書授与式 を 次達・先生・家族に感謝

平成26年度志津川高校「卒業証書授与式」が、 平成27年3月1日小雨模様の中、静寂に包まれた 体育館に350名が集まり、主役の卒業生と父兄・ 在校生の見守る中で開催された。

情ビ科第17回生の26名の代表として山内瑠奈 さんが第634号の卒業生を代表し卒業証書を受け、 普通科は第67回生の3年2組の代表で首藤謙太 君の第9048号を始め、3組まで89名が卒業した。 総勢115名が志高を巣立つ事となった。

佐藤充幸校長は「式辞」で、ご父兄への3年間の苦労に感謝を述べた。「広陵とした光景があり、不便な生活環境に耐え、生きるあかしを証明した。」と生徒を讃え「自らが選んだ道へ、学びは更に続き、心の目を開いて欲しい」と語った。それには「謙虚な気持ちで、他人の話しを聞いたり、専門家の話しに耳を傾ける。そういう学び方の基礎を学ぶ事が本校だった」と話した。その他にも、社会では責任と覚悟が必要、社会的な変化に対応していく、ねばり強く努力する事で、自分を磨くには学ぶしかない、と卒業生への多くのはなむけの言葉を贈った。

佐藤町長は祝辞で「90周年 の節目の卒業おめでとう」と 祝福した。

在校生の代表の「送辞」では、阿部かずき君が「先輩を私たちはほこりに思っている」「輝かしい先輩の1ページに私たちも加えてもらいたい」と話し、志津川高校をと

ンに私だらも加えてもられた い」と話し、志津川高校をより発展させる事を 誓った。

卒業生の「答辞」では、大坂凌平君(歌津出 身)が「ふるさとに少し寂しさをおぼえた。震災 から復興へと光景が変わった」と今の気持ちを 語った。志高での部活、勉強では、厳しさ・精神 力・目標など、青春の想い出に大きな価値があっ たと振り返った。「友達として大きなかけがえの ないものとなり、ありがとう」「成長させてくれ た先生方に感謝」「誰よりも感謝したいのは家 族」と語った。そして母の優しさを思いだし、大 きな声で参加した多くの方々の前で「お母さんあ りがとう」と述べた。会場の母親たちの目からは 涙がこぼれ、ぬぐう姿があり、父母への感謝の気 持ちを伝えた。結びに、友達・先生・家族から学 んだことを、人生に生かし一生の財産となったと 語り「本当にありがとうございました」ともう一 度大きな声で叫んだ。



昨年の11月11 日の創立90周 年にあたり、登 校坂には写真の ような大きな看 板が設置された。 現在進む志津川

地区「西工区」の土地の造成も後半にさしかかり 看板下には残土の運搬道路ができ、ひっきりなし に大型トラックが走っていた。



大震災直後から4年間の支援

今回の南三陸町ボランティアセンター閉所にあたり、長野県原村から清水村長さん、農林商工観光課小林課長をはじめ5名が「感謝の集い」への参加のために来町した。14日の前日は新しくオープンした袖浜の民宿明神崎荘を会場に、原村の方々とお世話になった荒砥・袖浜の皆さんによる総勢15名余りの交流会が開催された。

原村と南三陸町をつないだのは、医療支援でおいでになった医師団の先生と保健福祉課の声掛による出会いと、受け入れから始まった。震災後の2ヶ月頃、荒砥小学校体育館に入り、地域の支援と町の被災がれき等の跡かたずけのボランティアに、小林課長さんはじめ5名の方々が支援に訪れた。

次号に続く

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

~ 地元報道より ~

平成26年 (2014年) 10 月の出来事

◇志津川魚市場、今シーズンのサケの水揚 10 分 の1に。震災時の23年は稚魚放流の回帰時となっ たため。

- ◆気仙沼市議会、熊谷(雅)議員に飲酒運転疑惑。 全会一致で「辞職勧告」を決議可決。
- ◆気仙沼「旧女子高」の跡地を1月から解体し、</br> 災害公営住宅建設へ。

◇伊里前地区の嵩上げが厳しい中で、先行測量が 始まる。市街地には三陸道の残土が積まれ、凹凸 の土地が広がっている。商店主は早期復興をと求 めている。

◇歌津伊里前で「枡沢」「中学校裏」の高台現地 説明会が5日開催された。南三陸町の76区画(9 団地)の防集造成は今年度末で3割が完成する。 一方で区画が空き再募集も町で力を入れている。

◇南三陸町社会福祉協議会の被災者生活支援セン ターの主催で、「再会サロン」が開かれた。登米市・ 仙台市などのみなし仮設や、すでに独自再建した 70 名がふるさとに帰り交流会で喜びあった。

◇南三陸町の佐藤町長は、町職員3人と県観光職 員2人で台湾を訪問した。震災で多くの支援に対 する御礼と、宮城県や南三陸町の観光をアピール した。来年にも台湾からの観光ツアーが来ると話す。

志津川袖浜に新民宿

期神崎荘 オープと

宿泊・素泊の予約受け付け中 (小宴会もできます)

パート従業員も若干名募集中

問合せ・連絡先 TEL 0226-25-9885

◇10 日に災害公営を 738 戸にする見直しを発表 した。25年12月の770戸から、26年8月居住 希望世帯が 695 戸なった。セーフティネットと して、50 戸余分に整備を考えての発表戸数で、 これ以上の削減予定はないと言う。

◇今年度内のボランティアセンターの閉鎖にあた り、継続への声が上がっている。現在も全国から 月千人のボランティアが来ている。

◇13 日に竹下復興大臣が来町し被災者との懇談 の中で、「一人一人に寄り添って行く」と語った。 ◇歌津で震災以後に、ドイツのボン大学の中嶋博 士研究員により、館浜の大沢層(約2億4700万 年前)の地層から国内最古の脊椎動物の『ふん化 石』が発見されたと発表した。

- ◆気仙沼市で階上地区に災害公営住宅が長屋と共 に戸建て着手。20 日に安全祈願祭の開催予定。
- ◆気仙沼市赤牛漁港に密漁監視施設が復旧した。 集荷場、そして「みんなが集まる場所」として活 用をする。

◇南三陸町の八幡川右岸の「震災復興祈念公 園」の整備事業は当初 24ha を予定していた が、国からは縮小をもとめられ、第 10 次復 興交付金申請で 5,6ha に縮小し、測量・設計 費として4千万円を盛り込んだ。今回南三陸 町は事業分で約45億、県事業で約2億を申 請した。地権者は整備面積が縮小し、土地買 売の資金を充て込む一部に不満の声が上がっ

◇南三陸町内の家庭ゴミの焼却灰が満杯となり、 その受け入れ先は山形県村山市が受け入れる。 11 月に町と業務委託者と村山市とで、業務契約 を締結へ。

◆気仙沼市の工事入札の不調は減っているものの、 1 社だけの参加、落札が約半数を占める(上半期 落札率 84%)

◇南三陸町のホームページで、気象潮位の観測 データを公開へ。

◇志津川・歌津の被災地での「嵩上げ商店街再生」 に、商工会では出店主らの出資による「まちづく り会社」を設立し、管理運営をする。完成目標は 28 年 11 月だが、大幅に遅れている。

◆気仙沼市の仮設住宅状況は、26 年9月現在の 入居率 82%で退去は3年で 2000 人。年度内に は 75%となる見込み。27 年度には 50%以下と なる。仮設の集約が課題。

◇南三陸町では 11 日を「安全・安心の日」と条 例を制定し、町あげて防災に取り組む。

◇県漁協の発表によると、アワビ 10K 当たり7 万2500円と高値入札。

- 喘息とアトピー性皮膚炎 • シックハウス
- 花粉症 • エアコン・タバコのニオイ

こんな症状でお悩みの方へ

ガラスにプラチナチタンの塗布で その原因物質を削減します

問い合せ先エアーテック(歌津) TEL 0 8 0 - 1 6 6 0 - 8 1 3 3

11月の出来事

◇歌津地区の住民団体が作成していた「一燈」が 1日付けをもって廃刊する。東日本大震災後に地 域の被災状況や、復興情報などを全戸に配布を続 けてきたが、資金難のため1日付で廃刊する。地 区民からはおしまれての終わりとなる。

◇職員確保に南三陸町は、気仙沼市・女川・石巻 と共同戦線をとることとなった。南三陸町は138 人の必要職員に対し、8人が不足し、土木で最多 の5人が不足している。

◆気仙沼市の大川サケ漁は捕獲・採卵とも3割ま しで、沿岸のサケ漁は25%減少に。

◇南三陸町は28年度からの10年間の「総合計画」 策定へ、初会議を開催。復興を見据えた将来象や 大網を盛り込む。

◇「秋の勲章」で南三陸町からは、佐藤匡延氏 (79) が消防功労で瑞宝単光章を受章した。

◇南三陸町実施の町民意向調査の結果によると、 8割の住民が「遅れている」との実感だと言う。 調査は 5190 世帯に対し 1146 世帯が回答。回答 率 22,1%であった。

- ◆気仙沼水産振興センター事務長を 1900 万円横 領で逮捕した。
- ◆気仙沼「大島架橋」が 30 年度の完成を目指、 15日に着工式を開催し本体工事を本格着工する。
- ◆本吉響高校では仮設生活者に「響米」をプレゼ ントした。学校田で生産した米を1kずつ配布した。 ◇気仙沼市・南三陸町のカキ出荷が好調。10 月 末までで生産量は昨年の3.6倍の約52トン、全 額では4倍の9350万円となった。
- ◇南三陸町東工区の造成進捗率は 99.2%と年内 には終了する。昨年7月に造成開始した東工区は、 病院・役場用地の確保ができた。

◆7日南三陸町UR都市機構による「現地説明会」 を開催し、約 100 名の住民がベイサイドアリー ナ向かいの東工区東と、志津川市街のかさ上げさ れた土盛りの上から、変わりはてた志津川市街地 を望んだ。

◇27 年の入学志願者状況 (11 月 10 日付)、気 仙沼高校定員 240 人に対し 266 人で倍率は 1.11%で、前期選抜は 1.58%だった。志津川高

2011.3.11 を忘れない

がんぱらう 絆 南三陸町

PC作業アルバイト募集!

時給 1,000 円~

志津川広報センター(商工団地) (千葉印刷) **TEL 46 - 3069** 校は普通科 120 人に対して 83 人の 0.69%で情 報ビジネス科が 40 人の定員に 17 人の 0.43%の 倍率となった。連携型選抜では普通 108 人に対 し 79 人情ビは 34 人に対して 14 人であった。

◇南三陸町議会は地理・生産構造が似ていると、 女川町議会と復興の連携を図るため、合同で特別 委員会を開催した。

◇11 日に南三陸警察署で署員8名による捜索が 戸倉地区で行われた。(南三陸町の不明者は先月 31 日現在 215 人)

◇「志高 90 周年」を 450 名の生徒・歴代P TA役員が集い、11日の節目の日を祝った。 志高は大正 13 年4月に実科女学校として開 校し、志津川高等女学校から昭和 23 年の学 制改革により男女共学の志津川高校となった。 平成 15 年に県内初の中高一貫教育を導入し た。これまでに1万2031人を輩出している。 震災時は登米・上沼高校に分散して授業を 行った。

記念講演には戦場カメラマンの渡部陽一さん が来てくれた。新しい町づくりや復興を担う 人材育成に務めその誓いを新たにした。

◇町の条例一部変更で、町が買い上げた土地を復 興などに限って民間に土地の交換や譲与、貸し付 けができるようにした。

◇志津川市街地の3地区(東・中央・西)の災害 公営住宅(集合・戸建て)の戸数が494戸決定した。 東 238 世帯・中央 137 世帯・西 76 世帯と先月 末で申し込み状況をまとめた。東地区が人気で 65 歳以上の入居が 46%で、西が 33%、中央が 13%を占めた。東工区の団地は 31 戸上回る 113 世帯となり抽選が必要となった。

◇南三陸町で条例を改正した。防災集団移転事業 で買い取った土地の交換・譲渡を可能にし、跡地 利用課題を解消へ。企業立地や集約化を今後促進 していく。

◇南三陸町でも国保などの還付加算金の過少算定 がわかった。280件金額は46万円ほどで、速や かに今後送金手続きをする。

◇志津川湾のサケの遡上が前年の2割にとどまっ ている。震災時の放流が 10 分の1にとどまり、 サケの主群となり回帰するため、今年の水揚減と なった。決定した網上げも漁業者から協力を得ら れず中止となった。

佐 栄 畳 商 工 インフォメーション

新築やリホーム、転出・転入引越しのお手伝い

八 インテリア

- ・オーダーカーテン・ロールスクリーン・ブラインド
- ・クロス張替・ローマンシェード・プリーツスクリーン

電話 0220-23-2455 携帯 090-2023-0286

◆宮城6区衆議員選、小野寺五典氏(54)出場表明。 戦点は復興と米価と話す。

◇先月開催の「議会と住民の懇談会」に一人の議 員が許可なく懇談会を欠席した。欠席許可申請を 出していたものの、委員長の許可が出ないままで 欠席し、議会での「議会軽視」の指摘に欠席した 議員が陳謝した。

◇南三陸町教育委員長に大雄寺住職の小嶋孝尋氏 (54) を選任した。合併後8年間務めた、歌津石 泉の阿部東夫氏が任期満了で退任となった。

◇復興祈念公園(都市公園事業・メモリアルゾー ン) 事業として、26年・27年の合計で5800万 円が交付された。早ければ30年度ごろの完成を 予定している。

◇被災時の電力確保のために、公共施設や学校に 太陽光発電を設置。県再生可能エネルギー等事業 (グリーンニューディール基金)を 100%利用し 2億 460 万円で、27 年度完成の戸倉小学校にも 設置する。

◆気仙沼市は災害公営住宅の建設が進み、1年後 には入居率は36%となり、学校施設の仮設は 32%となる。年度内に集約計画を図って行く。